

ニッペ ケンエースG - カチオン形弱溶剤アクリル樹脂系非水分散形塗料

規格表示
特長

- JIS K5670 アクリル樹脂系非水分散形塗料
 ・防火材料認定 (NM-8585・QM-9816・RM-9364)
 ・乾燥が速く、作業性にすぐれています。

塗料性状

色	淡彩～濃彩					
密度(g/cm ³)(23℃)	1.51					
光沢	つや消し					
引火点	41					
発火点	454 (参考値)					
消防法表示	化学名	合成樹脂エナメル塗料				
	危険物区分	第4類 第2石油類(非水溶性)				
	危険物等級	III (火気厳禁)				
有機溶剤区分	第3種					
毒劇物表示	-					
有害物表示	メタノール(別名メチルアルコール)					
	キシレン					
	エチルベンゼン					
ホルムアルデヒド	登録(認証)番号	N02015				
分散等級	区分表示	F				
国連/指針番号	問合せ先	http://www.toryo.or.jp				
環境性能	クロルピリス	配合せず	ホルムアルデヒド	配合せず	トルエン	配合せず
	キシレン	0.5%	パラジクロロベンゼン	配合せず	エチルベンゼン	0.2%
	スチレン(モノマー)	配合せず	フタル酸ジ-n-ブチル	配合せず	トリクレタール	配合せず
	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	配合せず	ダイオキシン	配合せず	アトアルデヒド	配合せず
	フェノール	配合せず	鉛	配合せず		
	T V O C	23.4%				
防火材料等認定	NM-8585 塗料塗装/不燃材料, QM-9816 塗料塗装/準不燃材料, RM-9364 塗料塗装/難燃材料					

- ・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。
- ・本商品には当社工場にて製造もしくは調色したJIS表示品と、店頭にて調色していただく為のJIS非表示品があります。JIS表示が必要な場合はご注文時にその旨をご指示ください。JIS非表示品にて調色された場合、当社より保証書発行いたしません。ご必要の際、その旨をご指示ください。

調色適応

つや有り			7分つや有り			5分つや有り			3分つや有り			つや消し		
淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩
x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			

- ・使用原色の種類、隠蔽性の関係上、目的の色相、つやに調整できない場合があります。

塗装基準

荷姿：
希釈剤：
塗装方法：

16kg、4kg
塗料用シナーA

塗装方法	はけ、ウールローラー塗り	エアレススプレー塗り
希釈率	0～7%	5～10%
使用量	0.13～0.15kg/m ² /回	0.14～0.16kg/m ² /回

- ・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
- ・塗付け量は、0.10kg/m²/回です。
- ・使用量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の使用質量
- ・塗付け量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の付着質量

乾燥時間：

	5～10	23	30
指触乾燥	1時間	20分	10分
塗り重ね乾燥	4時間以上	2時間以上	1時間以上

- ・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

特記事項

- ・蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄りの営業所などにご相談ください。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・ケンエースGアクト（ケンエースG-）の下塗り材として1液ファインシーラーまたはACホワイトシーラーを使用すると、割れが生じるおそれがあるため、使用しないでください。
- ・ケンエースG-グロスの上に直接ケンエースG-（つや消し）を塗装すると、割れたり、縮んだりすることがありますので避けてください。
- ・鉄部の塗装の場合、2液形のさび止め塗料または上塗りと同系色の「ニッペ1液ハイボンファインデクロ」をご使用ください。
- ・鉄部には直接塗装できません。あらかじめ、さび止め塗料を塗っておく必要があります。

注意事項

- ・防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- ・塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- ・色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- ・つや有り仕上げを塗り替える場合、種類によっては適性がない場合がありますので、試し塗りをしてから本施工してください。
- ・溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- ・所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- ・異なる色相を塗り重ねる場合（例：1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など）2回目の上塗りが1回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色（ブリードにより）する場合がありますのでご注意ください。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこなうおそれがあります。
- ・内部塗り替えにおいて旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、研磨すりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- ・既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ・改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご確認ください。
- ・風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。
- ・やにが著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きして除去し被塗装面に十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥（目安23、6時間）させてから2回目の塗装をすることでやに止め性が向上します。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗装面を十分乾燥させてから塗装してください。
- ・塩化ビニールクロスのはがれ、めくれ、浮きなどは接着剤で貼り付け、ローラーで圧着したり、類似クロスで面合わせをするなどあらかじめ補修してください。またクロスは接着剤が低下している場合、塗装することでクロスが浮き上がってくる場合がありますので、クロスは合わせ部などはあらかじめ接着剤などで押さえておくことが安心です。
- ・素地表面のアルカリ度はpH1.0以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製Hi500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- ・表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ・ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペ1材カチオンフィラー、ニッペフィラー200）などで処理してください。（合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください。）
- ・新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- ・塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- ・カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を

本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved.

起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。

- ・笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合がありますため、事前に試験施工塗り板等でご確認下さい。
- ・調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- ・濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- ・濃彩色を塗装する際には、つやむらが目立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りをしてから確認の上、ご使用ください。
- ・大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ・はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ・ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- ・塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- ・汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・可塑性が多く含まれる塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接接触することがないようにご注意ください。
- ・塗料は内容物が均一になるようによくかき混ぜてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかき混ぜてご使用ください。
- ・開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。